

学内の施設・設備及び労働環境に関する アンケート集計報告

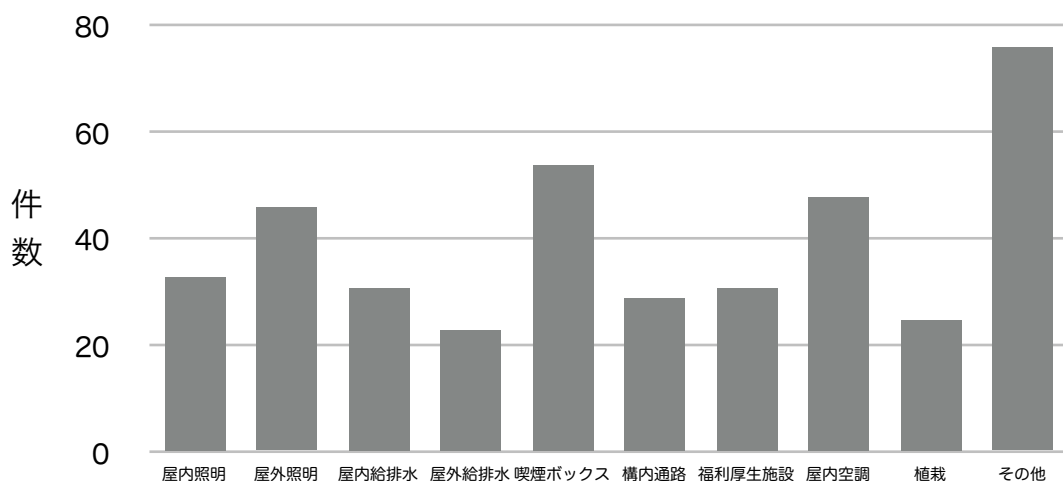
島根大学職員組合では、職員の研究・教育環境及び、労働環境の実状を把握し、その改善を図ることを目的とし、2010年11月末から12月1日の約一週間にわたり職員アンケートを実施しました。なお、出来る限り多数の職員の方々からの意見を頂きたいと考え、島根大学の全事業所の職員の方々を対象に配布・回収させて頂きました。お寄せ頂きました数々の貴重なご意見は、組合の中央執行委員会、四役会議で取りまとめを行い、「2010年度島根大学職員組合重点要求項目」の中の「休暇取得率の向上」及び「施設・設備の改善」の両項目に盛り込ませて頂き、5月2日に当局に提出いたしました。

本報告では、今回のアンケートの中の「各事業所の施設・設備の改善点」、「労働環境」の項目について、お答え頂いた結果を集計・検討した結果についてご報告させていただきます。

なお、本アンケートは549部回収され、回収率は32%（松江キャンパス27%，出雲キャンパス37%）でした。

学内施設・設備について

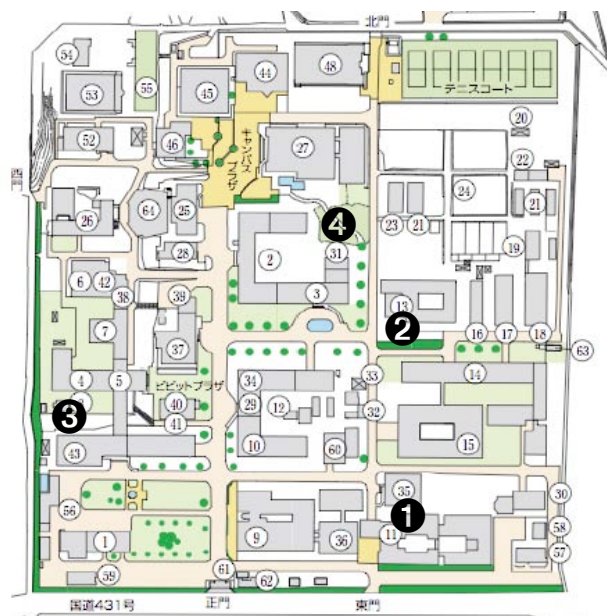
回収されたアンケートの52%に改善希望が記されていました。また、各項目についての総数は下記の棒グラフの様になりました。以下に簡単な取りまとめ結果と代表的なご意見をまとめました。なお、①建物外の照明を改善すること、②出雲キャンパス敷地内において受動喫煙を避けるため、適切な場所に喫煙施設を設けること、③キャンパス内の給水システムを改善し、安心して飲める水を供給すること、④危険な既存通路を補修し、必要に応じて新規通路を開設すること、⑤利用者の意見を取り入れて、空調システムを改善することに付いては、「2010年度島根大学職員組合重点要求項目」の中に盛り込ませて頂きました。



【建物外の照明】46件：暗いという意見が多く、改善を要望した。

（松江）：右図の●印の部分が暗い。①遺伝子実験施設と駐輪場の通り道。②生物資源1号館玄関付近。③教育学部光物性実験棟前の階段付近。④茂みの中の通り道（以前は照明があった）。

（出雲）：駐車場に行くまでの道が暗く、夜遅く帰宅するため怖いです。（他に12件同様の意見があり）。構内の照明が暗い。



【建物内の給排水】32件：水質に関する要望が多い。必要な場所には市水のタップの設置を要求する。

（松江）：安心して飲める水がほしい。水道水（井水？）の質が悪すぎる（スケールが溜まるなど多数の不安を述べた意見あり）。総合理工1号館7階の市水の水量不足。

（出雲）：水道の鉄分が多く、実験器具の洗浄が不便。

【建物外の給排水】23件：降雨時の排水不良に起因する通用路・駐車場の冠水に関する意見が多い。改善を求めたい。

（松江）：情報処理センター北側通路、雨天時大きな水たまりができ歩にくい。図書館前に水がたまる。

（出雲）：第2研究棟の北側駐車場の降雨時の冠水。検査部、更衣室、洗浄室、下水のにおいが上がってくる。実習棟前の駐車場の排水溝が詰まっています冠水する。

【喫煙ボックス】54件（（出雲）33件、（松江）21件）：全面禁煙を要望する意見がかなりある。特に（出雲）は医療の現場と言う事もあり、至急改善が必要であると思われる。

（松江）：周囲にタバコ臭がする。全面禁煙にしてほしい（意見多数）。ボックスの戸を開けて喫煙している。

（出雲）：窓を開けると喫煙場所からの煙が入ってくる。喫煙場所が出入り口の近くに設けてあるため、喫煙場所を避けて目的の場所行くことが不可能であり、通る際に受動喫煙となる。また、喫煙者がたばこを吸った後すぐにエレベーターに乗ると、エレベーターの中は10分程度は呼気によりタバコの毒ガスで充満している。敷地内全面禁煙を強く要望する。喫煙後（例えば10分以内）のエレベーター使用は禁止すべきである（意見多数）。喫煙場所、喫煙ボックスは撤去してキャンパス内は敷地内禁煙にしてもらいたい。

【構内の通用路】29件：降雨時の排水不良、雨漏り箇所の早急な改善及び、新規通路の計画を要望する。

（松江）：みしまや側の出入り口が狭い。教育棟の⑥～⑦が通路になるようにしてほしい。⑦周辺に駐輪場の設置。総合理工3号館2F南側の一期工事と二期工事のつなぎ目部分から雨漏り。生物資源1号館西側から北門へかけての道路の水はけが悪すぎる。

（出雲）：グランドの脇の橋の柵を撤去してほしい。第二研究棟から病院への回り道が現実的ではない。

【建物内の空調】48件：空調設備の不具合並びに一律な空調設定では不十分な箇所の抽出及び改善を要望する。

（松江）：生物資源3号館の空調が11月末になると使えない。総合理工・大学院棟の空調をエアコンにしてほしい。

（出雲）：冷暖房の温度・風量調節が出来ない。南側の部屋は冷房が効かない。休みや夜は機能していないので、大変しんどい。司法解剖等休日、夜間も従事する必要があるので改善を求める。

【福利厚生】31件：運動施設設備の充実とそれに伴うロッカー・更衣室の整備が必要と思われる。

（松江）：生物資源や総合理工に生協のミニショップを設置して欲しい。運動施設や運動器具の整備、更新、管理。洋式トイレの高機能化。

（出雲）：ロッカールームの整備・充実。女子更衣室・休憩室の設置・充実。ジムの設置。テニスコートの整備。

【屋内照明】33件：照度不足の意見が多い（特に廊下・階段）。節電の必要性もあるが、LED照明等への交換も考慮すべきと思われる。

（松江）：小学校の教室の後部が暗い。図書館の玄関ホールが暗い。総合理工・生物資源の廊下が暗い。

（出雲）：階段・廊下が暗い。研究棟が暗すぎる。

【植栽】25件：植栽の手入れ及び、雑草の処理に関する意見が多い。

（松江）：構内全体に緑が少ない。植栽を整備して欲しい。キャンパス周辺のカイツカイブキは残した方がよい。

（出雲）：割れたプランターがほったらかし。雑木の剪定。雑草の刈り取りをして欲しい。植木がおおすぎる。（処理して）職員駐車場を増やして欲しい。

【その他】76件：意見は多岐にわたっているため、今後選別して要求して行きたいと考えている。

（松江）：研究室のスペースが狭小である。駐輪場の増設。附属学校間の通路を作って欲しい。建物の雨漏り修理。

（出雲）：ありすぎて具体的にかくほどでない。研究棟のエレベーターが狭い。職員駐車場の増設。男女別のトイレの設置。駐車場に大穴が空いている。

労働環境について

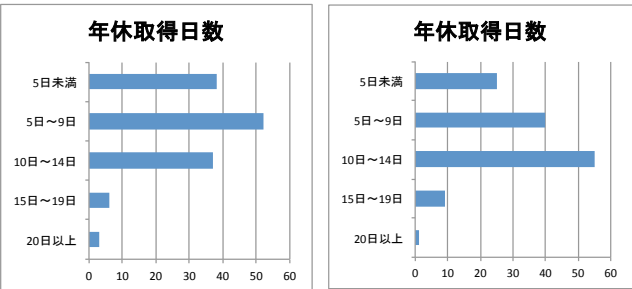
アンケート内容が、事務系職員と教育系職員で少し異なりましたので、事務系職員と教育系職員とに分けて記載しています。なお、「2010年度島根大学職員組合重点要求項目」の中に「休暇取得率の向上」（短期、長期の休暇を取得しやすい職場づくりに早急に取り組むこと）として次の3項目を要求いたしました。①育児休暇、介護休暇の取得状況や問題点を調査した上で、取得を促す措置を講ずること。②サバティカル制度の取得状況や問題点を調査した上で、取得を促す措置を講ずること。③有給休暇の取得状況や問題点を調査した上で、取得を促す措置を講ずること。

【事務系】

＊グラフは全て左側が常勤職員、右側が有期雇用職員となります。また横軸は人数を示します。

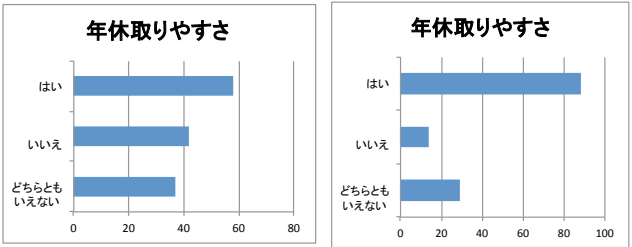
【年休の取得日数】

常勤職員では9日以下が70%近くを占めているが、有期雇用職員では9日以下は約50%と比較的少なかった。



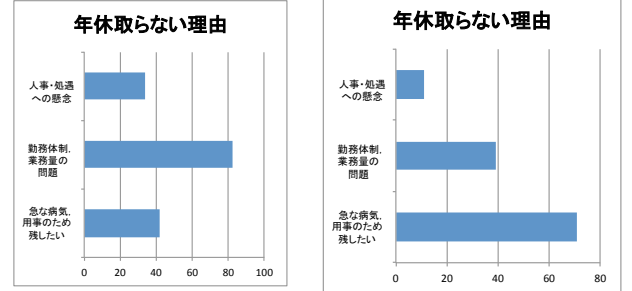
【年休の取りやすさ】

常勤職員では「はい：取りやすい」との答えが約46%にとどまったが、有期雇用職員では約66%と高く、年休取得日数が多い理由の一つとなっているものと思われる。



【年休を取り残した理由】

常勤職員では勤務態勢・業務量の問題で年休を取らないと答えた人数が最も多く、続いて人事・処遇懸念となっていた。これに対し、有期雇用職員では急に休みを取る必要が出来たときのために残しておく人が過半数を占めていた。常勤職員の業務量の多さを示唆しているように思われる。

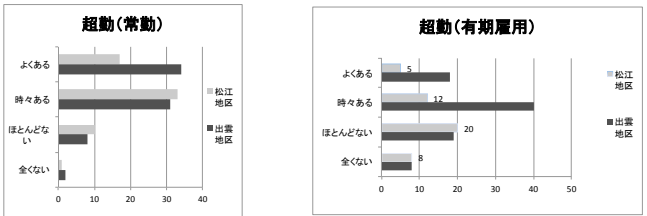


【年休についての自由記述】

- ・取得しにくい、現在のところ特に不便はない
- ・子供の用事、親の病院のつきそいなどで使い果たして自分が具合がわるくなってもとれない。
- ・今回10日以上取得したのも急な病気や用事等がほとんどである。周りが取らないので取れないというのは大いにある。うちの係では1人1担当で他の人にはできない業務のため休みにくいので取りたくても取れない状況である。
- ・振り替え休日すら取得が困難
- ・家にいても暇だから
- ・他人の（同部署の）休暇予定が不明（出張等）急な休暇を取る可能性のある人が数名いる
- ・自分ではそうでもないが、全体的に取得回数が少なく、取りづらいと感じている人が多いと思う。
- ・スタッフの協力により非常に取得しやすいが、他スタッフへの負担は生まれてしまう。

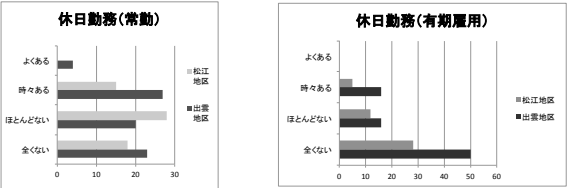
【超過勤務】

常勤職員では「よくある」、「時々ある」を合わせると80%を越え、超勤が常態化しているように思える。一方、有期雇用職員では、出雲地区での超勤が松江地区よりもかなり多いことが示された。



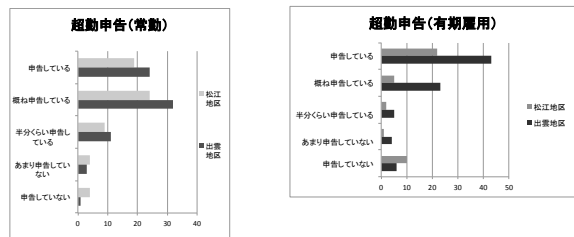
【休日勤務】

常勤職員では「よくある」、「時々ある」を合わせると約34%、有期雇用職員では「時々ある」が約17%であり、常勤職員では、休日勤務がかなりあること、また常勤・有期雇用にかかわらず、出雲地区で休日出勤する職員が多いことが示された。



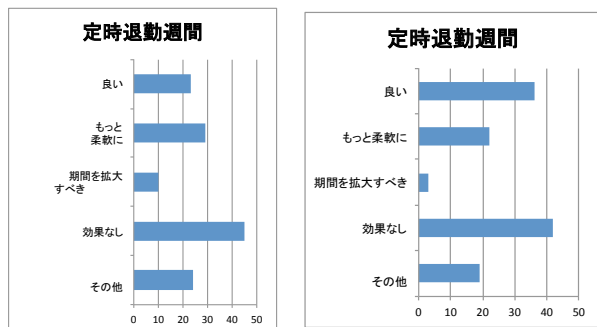
【超勤申告の有無】

「申告している」と「概ね申告している」を合計すると、常勤職員と有期雇用職員とでは、それぞれ76%、77%と比較的高い値を示していた。ただ、「あまり申告していない」と「申告していない」も合計すると常勤職員と有期雇用職員で、それぞれ約10%、17%と依然として存在していた。



【定時退勤週間】

常勤職員では「良い」17%、「効果無し」35%であったが、有期雇用職員ではそれぞれが、30%、34%とほぼ拮抗していた。次に示す自由記述でも分かるように、この取り組みには改善の余地があるものと思われる。



【定時退勤週間についての自由記述】

- ・最初の1ヶ月目は大騒ぎをしたが、2ヶ月目以降だんだんルーチン業務で残る姿が見受けられる。部署によって週がちがうと会議等仕方がないことも多い。
- ・他の週にツケが回る
- ・各自の意識の問題。定例的に実施することが望まれる。
- ・業務が多いのに定時退勤はできない
- ・その前後に超過勤務が増えるだけ
- ・無理やりな感じがする
- ・7～9月は繁忙期の職場もあるので、時期は検討してほしい。省エネ効果等を明らかにしてほしい。
- ・関係なかった
- ・業務が少ない時期だったので定時に帰れたが繁忙期は帰れないと思う。普段超過勤務の削減について全く意識がない上司にとって意識させるよい機会だと思う。
- ・逆にこれがあるせいで超勤を申告しづらい。
- ・定時退勤週間をおいても形だけで、実際は残業をしている。残業時間を記入したら、後でその理由を聞かれるのが嫌だ。また、定時に帰ったとしても、その週の仕事が翌週の超勤につながるだけだ。
- ・業務の偏りや人員の偏りをまったく考慮も検討もせず、定時退勤週間に押し付ける、あるいは一方的に改善の努力を強制しようとするのは納得がいかない。誰も好きで残っているわけではないのだから

【定時退勤週間についての自由記述】 続き

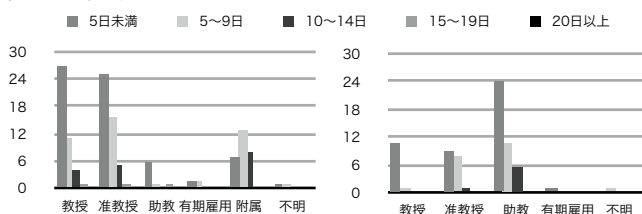
- ・無駄。実態を無視して強制されているようなもの
- ・病院勤務は無理！
- ・定時退勤できるならしていると思う。期間中のみ実施しても無意味。
- ・大学の出費をおさえる
- ・知らなかった。職場では周知されていない。
- ・行っていない
- ・知らなかった。(9名)

【教育系】

*グラフは全て左側が松江地区、右側が出雲地区となります。また縦軸は人数を示します。

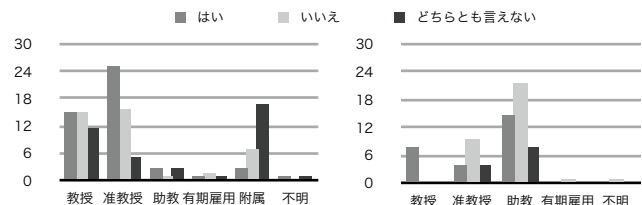
【年休の取得日数】

年休の取得日数が9日以下は松江地区で83%、出雲地区で90%であった。また、5日未満ではそれぞれ46%、60%となり、いずれも出雲地区での取得日数が少ない結果となった。



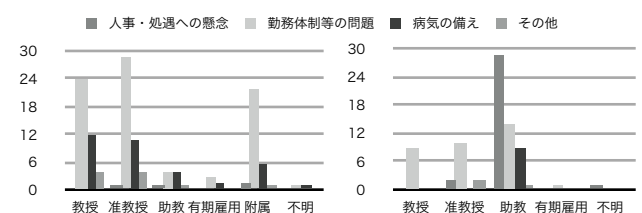
【年休の取りやすさ】

松江地区では「いいえ：取りにくい」との答えが約33%にとどまったが、出雲地区では約46%と高かった。



【年休を取り残した理由】

松江地区では「勤務態勢・業務量の問題」で年休を取らないとの答えが約64%と最も多く、続いて「病気の備え」となっていた。これに対し、出雲地区では「勤務態勢・業務量の問題」で年休を取らないとの答えが約47%であり、「人事・処遇への懸念」が約44%とほぼ同数となっていた。特に助教のみでは55%が「人事・処遇への懸念」を理由として挙げており、「勤務態勢・業務量の問題」の26%を大幅に上回る結果となった。



【年休についての自由記述】

- ・ほぼ子供の病気看病のため。
- ・消化している休暇の半分は病気によるものです。
- ・授業期間中はとりにくい
- ・取得する暇がないほど業務がある。
- ・代休を長期休暇中にまとめて取りたい。
- ・特に困ってはいない。
- ・裁量労働制になり、時間単位の休暇を取ることがなくなると、丸一日休むことができる日も少ないので年休を消化する機会が減った。反対に、半日程度だけ休みたい場合でも年休をとって、半日は仕事をする場合もある。
- ・簡単に休めるような状況だと思われませんか？
- ・講座として、学生のために不用意に休めない
- ・事務上は消化したことになっていますが、実際は出勤しています。
- ・教員には意味がない
- ・人が少ない
- ・会議・講義などで一日休める日がない
- ・ほぼ毎日授業があり、休講すれば土曜日などに補講しなければならないため
- ・授業があるため
- ・特に問題なく年休を消化している

【労働時間】

松江地区では「週60時間以下」が約73%と最も多かったが、附属では60～80時間が60時間以下と拮抗していた。出雲地区では「週60時間以下」が約63%と最も多いが、60～80時間も約32%と松江地区の約20%を上回っていた

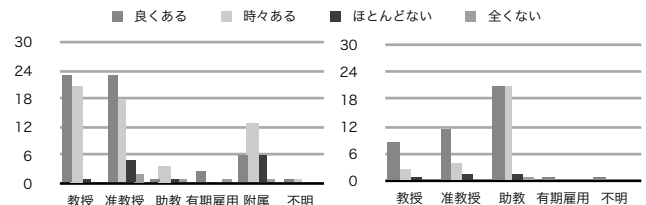
【労働時間についての自由記述】

- ・年に3-4日休み（土日もない）（90時間/週）
- ・総合理工の忙しさは、想像を絶する。助けてほしい。（110時間/週）
- ・事務室の仕事がpoor(他施設の6-7割)勉強してほしい。
- ・給料を上げてほしい。
- ・嘱託ではない正規の常勤職員を増やしてほしい。
- ・全く労働しない教員を指導してほしい。
- ・食堂の休日営業
- ・無駄な会議をやめてほしい。
- ・（子供の）一時預かりのスペースの確保
- ・委員会などの必要性もわかるが、委員会のために時間を使ってその日の仕事にずれ込む
- ・職場が50時間で自宅での業務処理が50時間（週）
- ・兼任の職務が多すぎて休む余裕がない。
- ・休日も出勤、勤務時間を過ぎても仕事をするのがあたりまえの雰囲気がある。
- ・ポストクを雇いやすいよう、時給上限をもう数段設定してほしい。1500-2000円/時ぐらい。
- ・一部の教員のいい加減さが他の教員へのしわ寄せ担っている。ペナルティーを導入すべきだ。

- ・事務の対応が柔軟性に欠ける時が多い。
- ・逆に仕事をしない人が多すぎる
- ・大学院に投資する。実際の業務量を正に評価して頂きたい。社会人入学生への対応があり負担である。
- ・全学の仕事と学科の仕事を含めて平等にしてほしい。

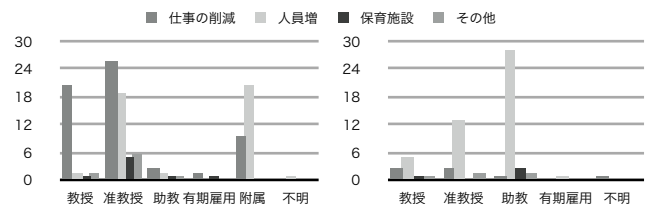
・【休日出勤】

「良くある」、「時々ある」との答えは松江地区、出雲地区でそれぞれ86%、91%であり、ほとんどの教員が休日出勤を経験していることが分かった。



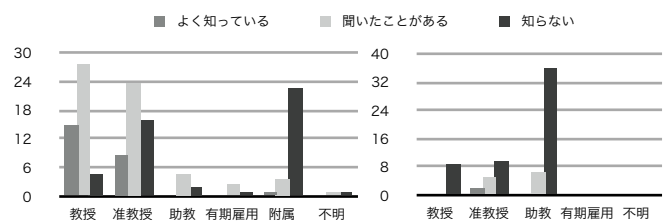
【労働時間に関する要望】 複数回答可

松江地区で最も要望が多かったのが「仕事量の削減」であり、続いて「人員増」であったが、出雲地区では「人員増」が圧倒的に多かった。



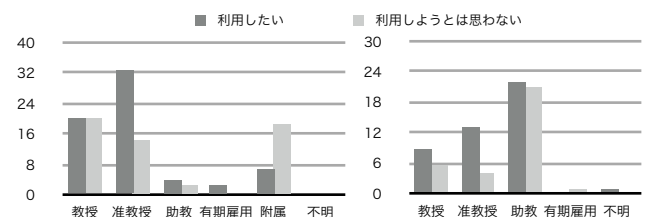
【サバティカル研修制度】

松江地区で35%、出雲地区で79%が「知らない」という回答であった。本制度の詳細について特に出雲地区で周知を行う必要があると思われる。



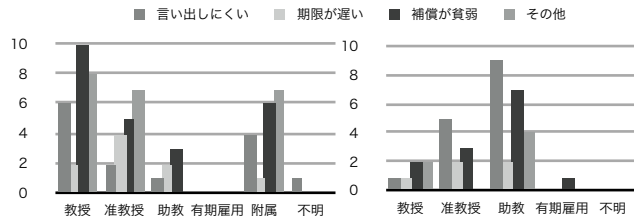
【サバティカル研修制度の利用】

簡単なサバティカル研修制度の説明文を記載した上で回答を求めた結果、松江地区で54%、出雲地区で58%が「利用したい」という回答であった。いずれの地区でも准教授の利用希望が多かった。



【サバティカル研修制度を利用しない理由】複数回答可

制度の理解が不十分なままで回答された方も多かったと思われる。「補償が貧弱」という意見が多かった。また、出雲地区での助教に「言い出しにくい」という意見が多かった。「その他」の部分には次の自由記述の内容が含まれていると思われる。



【サバティカル研修制度についての自由記述】

- ・学科内の他の教員が忙しくて死んでしまう（利用すると）
- ・忙しくて休みを取ると他教員の負担が増える。
- ・サバティカル研修の費用は自己資金でも可能であったり、委任経理金の使用も可能であるため、職員（医療職）のグレードアップにはもっと活用されるべきである。但し、十分に貢献している人に与えるべき資格である。
- ・取得するまでに多くの業務をこなしたなど、実績がある人でないと申し出しにくい雰囲気があると思う。
- ・日常業務が最も大切だと思うから。
- ・臨床から離れると、臨床医としての技量が損なわれないかと心配。
- ・研究と教育は表裏一体である
- ・実務教員であるため
- ・委員会、入試業務から開放されて、教育研究に専念できる期間としたい。
- ・とにかく忙しくてとれない。
- ・附属学校園にも適用してほしい。
- ・ドクター、マスターの院生がいるので、のんきに自分のことをやっている場合ではない
- ・マンパワー不足のため臨床業務を全くしないわけにはいかない。
- ・実験系は大学に行かないと研究にならない。委員を免除されるといってもそういうことは無理だ。
- ・教員の主業務は教育である。教育をやらず、自主研鑽という意味がわからない。また法人化後は教員は組織のために働くべき。
- ・サバティカルによって得られた成果を本学に還元せず、転出のための業績作りに利用される恐れがある方。裏を返せば本学の環境がいかに悪いかということ。
- ・私の身分ではまず、与えられた時数と職責を果たすことが先。
- ・利用した際の結果の基準が不明確。単に遊びに行ってもとがめられない。
- ・その様な社会学内環境になっていない。
- ・年齢的に今更取ろうとおもわない。
- ・仕事上、長期間の留守ができない。
- ・詳細がわからないので、判断が付きません
- ・サバティカル研修制度を活用しなくても、現状でも研修・研究などではできることがまだたくさんある。なかなかそこまで手を出せないでいるのも事実。
- ・附属では無理

- ・現在の職の現場で邁進したい。
- ・現場を離れたくないから。
- ・そこまで研究に専心したくない。
- ・その期間免除されるよりも通常勤務をしたい。
- ・今は魅力を感じない